



ワイヤレス テクノロジーの設定

- AP 上で最適化されたモニタ モードを使用したタグ付きアセットの追跡 (2 ページ)
- ワイヤレス チョークポイントの作成 (2 ページ)
- ネットワークからのワイヤレス チョークポイントの削除 (3 ページ)
- 自律 AP の設定 (3 ページ)
- AP イーサネット インターフェイスの設定 (9 ページ)
- CSV ファイルのインポートによる AP の設定 (10 ページ)
- 自律 AP の詳細のエクスポート (11 ページ)
- アクセス ポイントでの CDP の設定 (12 ページ)
- アクセス ポイント XOR アンテナの設定 (12 ページ)
- ワイヤレス チョークポイントを使用したタグ付きアセットの追跡 (16 ページ)
- AP のコピーおよび置き換え (16 ページ)
- AP の削除 (17 ページ)
- AP オンボーディング プロファイルの設定 (17 ページ)
- AP 無線ステータス変更のスケジュール設定 (21 ページ)
- スケジュール済み AP 無線ステータス変更の表示 (21 ページ)
- AP の監査ステータスの表示 (22 ページ)
- アクセス ポイントの検索 (23 ページ)
- メンテナンス状態における AP のアラームの表示 (24 ページ)
- ワイヤレス設定グループ (25 ページ)
- メッシュ ネットワークにおけるリンクの表示 (28 ページ)
- コントローラの不正 AP 分類ルールの定義 (29 ページ)
- コントローラの自動プロビジョニングを使用した WLC の追加と置換 (30 ページ)
- AP オンボーディング プロファイルの設定 (32 ページ)

AP上で最適化されたモニタモードを使用したタグ付きアセットの追跡

タグのモニタリングとロケーション計算を最適化するには、アクセスポイントの2.4 GHz帯（802.11b/g無線）内で、最大4つのチャンネルに対してTracking Optimized Monitor Mode（TOMM）を有効にします。これによって、タグが機能するようにプログラミングされているチャンネルだけを対象にチャンネルスキャンを実行できます（チャンネル1、チャンネル6、チャンネル11など）。

アクセスポイントレベルでモニタモードを有効にした後、TOMMを有効にして、そのアクセスポイントの802.11b/g無線にモニタチャンネルを割り当てる必要があります。

アクセスポイント無線でTOMMを有効にして、モニタチャンネルを割り当てるには、次の手順を実行します。

-
- ステップ1 アクセスポイントレベルでモニタモードを有効にしたら、**[設定（Configuration）]** > **[ワイヤレステクノロジー（Wireless Technologies）]** > **[アクセスポイントの無線（Access Point Radios）]**を選択します。
 - ステップ2 **[アクセスポイント（Access Points）]**ページで、適切なアクセスポイントの**[802.11 b/g無線（802.11 b/g Radio）]**リンクをクリックします。
 - ステップ3 **[一般（General）]**グループボックスで、チェックボックスをオフにして**[管理ステータス（Admin Status）]**を無効にします。無線が無効になります。
 - ステップ4 **[TOMM]**チェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、モニタモードのAPの場合のみ表示されます。設定可能な4つのチャンネルそれぞれにドロップダウンリストが表示されます。
 - ステップ5 アクセスポイントによるタグのモニタを有効にする4つのチャンネルを選択します。

（注） モニタ対象として4つすべてのチャンネルを選択する必要はありません。モニタリングチャンネルを削除するには、チャンネルのドロップダウンリストから**[なし（None）]**を選択します。
 - ステップ6 **[保存（Save）]**をクリックします。チャンネル選択が保存されます。
 - ステップ7 **[無線パラメータ（Radio parameters）]**ページで、**[管理ステータス（Admin Status）]**チェックボックスをオンにして無線を再度有効にします。
 - ステップ8 **[保存（Save）]**をクリックします。これで、アクセスポイントがTOMMアクセスポイントとして設定されました。

[モニタ（Monitor）] > **[アクセスポイント（Access Points）]**ページに、APモードが**[モニタ/TOMM（Monitor/TOMM）]**と表示されます。
-

ワイヤレスチャークポイントの作成

チャークポイントを追加するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [チョークポイント (Chokepoints)] の順に選択します。
- ステップ 2** [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから [チョークポイントの追加 (Add Chokepoints)] を選択し、[実行 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** チョークポイントの MAC アドレスと名前を入力します。
- ステップ 4** これが Entry/Exit チョークポイントであることを示すには、該当するチェックボックスを選択します。
- ステップ 5** チョークポイントのカバレッジ範囲を入力します。
- チョークポイントの範囲は、視覚的な表示のみです。これは製品固有です。実際の範囲は、該当するチョークポイント ベンダー ソフトウェアを使用して別個に設定する必要があります。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
- データベースにチョークポイントを追加したら、適切な Prime Infrastructure フロアマップに配置できます。
-

ネットワークからのワイヤレスチョークポイントの削除

チョークポイントを削除するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [チョークポイント (Chokepoints)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するチョークポイントのチェックボックスを選択します。
- ステップ 3** [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから [チョークポイントの削除 (Remove Chokepoints)] を選択し、[実行 (Go)] をクリックします。
- ステップ 4** [OK] をクリックして削除を確認します。
-

自律 AP の設定

Prime Infrastructure から、自律アクセスポイントを追加するには、次の方法があります

デバイス情報を使用した自律 AP の追加

デバイス情報によって Autonomous アクセスポイントを Prime Infrastructure に追加するには、カンマ区切りの IP アドレスとクレデンシャルを使用します。

Cisco Autonomous アクセスポイントには、工場出荷時にデフォルトのイネーブルパスワード Cisco が設定されています。ユーザはこのパスワードを使用して、非特権モードにログインし、show および debug コマンドを実行することができますが、これはセキュリティに対する脅威

となります。不正アクセスを防止し、ユーザがアクセスポイントのコンソールポートからコンフィギュレーションコマンドを実行できるようにするには、デフォルトのイネーブルパスワードを変更する必要があります。

デバイス情報を使用して Autonomous アクセスポイントを追加する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから、[Autonomous AP の追加 (Add Autonomous APs)] を選択し、[実行 (Go)] をクリックします。

ステップ 3 [全般 (General)] タブで、Cisco WLC の IP アドレスを入力します。DNS 名によって追加する場合は、DNS 名を追加します。

ステップ 4 [SNMP] タブで、Cisco WLC で作成した SNMP のバージョンを選択します。

ステップ 5 SNMP v1 または v2c を使用する場合は、Cisco WLC で設定された読み取り/書き込みコミュニティストリングを記述する必要があります。SNMP v3 を使用している場合は、以下を設定する必要があります。

- [ユーザ名 (Username)]
- [モード (Mode)]
- 認証タイプ (Auth.Type)
- 認証パスワード (Auth.Password)
- プライバシータイプ (Privacy Type)
- プライバシーパスワード (Privacy Password)

ステップ 6 [Telnet/SSH] タブで、Telnet/SSH パラメータを設定します。

ステップ 7 [HTTP/HTTPS] タブで HTTP クレデンシャルを指定して、Cisco Prime Infrastructure がそこからデータを収集できるようにします。

- [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [HTTP] または [HTTPS] を選択します。TCP ポートは、選択したプロトコルのデフォルトポートに自動的に変更されます。
- [TCPポート (TCP Port)] テキストボックスで、デフォルトを上書きする場合は、別の TCP ポートを入力します。
- ユーザの名前を入力します。
- パスワードを入力し、そのパスワードを確認します。
- モニタのユーザ名およびパスワードを入力し、そのパスワードを確認します。

ステップ 8 [追加 (Add)] をクリックします。

AP を追加して、インベントリ収集が完了すると、[アクセスポイント (Access Point)] リストページ ([設定 (Configure)] > [アクセスポイント (Access Points)]) に表示されます。[アクセスポイント (Access Points)] リストにない場合は、[設定 (Configure)] > [不明デバイス (Unknown Device)] ページを選択して、ステータスを確認します。

(注) Autonomous アクセスポイントは、ライセンスの合計デバイス数に含まれません。

CSV ファイルを使用した自律 AP の追加

Autonomous アクセス ポイントを Prime Infrastructure に追加するには、WLSE からエクスポートした CSV ファイルを使用します。

CSV ファイルを使用して Autonomous アクセス ポイントを追加する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。
- ステップ 2 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから、[Autonomous AP の追加 (Add Autonomous APs)] を選択し、[実行 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 [フォーマット タイプの追加 (Add Format Type)] ドロップダウン リストから [ファイル (File)] を選択します。
- ステップ 4 該当する CSV ファイルを入力するか、参照して選択します。
- ステップ 5 [OK] をクリックします。

CSV ファイルを使用した自律 AP の一括更新

CSV ファイルをインポートすることで、複数の Autonomous アクセス ポイントのクレデンシャルを更新できます。

Autonomous アクセス ポイント情報を一括で更新するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。
- ステップ 2 該当するコントローラのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから、[AP の一括更新 (Bulk Update APs)] を選択します。[Autonomous アクセス ポイントの一括更新 (Bulk Update Autonomous Access Points)] ページが表示されます。
- ステップ 4 [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックして CSV ファイルを選択し、インポートする CSV ファイルの場所を見つけます。
- ステップ 5 [更新と同期 (Update and Sync)] をクリックします。

自律 AP の一括更新用のサンプル CSV ファイル

次に、V2 デバイス用の CSV ファイルの例を示します。

```
ip_address, network_mask, snmp_version, snmp_community, snmpv3_user_name, snmpv3_auth_type,
snmpv3_auth_password, snmpv3_privacy_type,
snmpv3_privacy_password, snmp_retries,
```

```
snmp_timeout,telnet_username,telnet_password,telnet_retries,telnet_timeout
209.165.200.224,255.255.255.224,v2,public,,,,,3,4209.165.201.0,255.255.255.0,v2,public,,,,,3,4,Cisco,Cisco,2,10
```



(注) SNMP、telnet、または SSH クレデンシャルは必須です。

次に、V3 デバイス用の CSV ファイルの例を示します。

```
ip_address, network_mask, snmp_version, snmpv3_user_name, snmpv3_auth_type,
snmpv3_auth_password, snmpv3_privacy_type,
snmpv3_privacy_password, snmp_retries,
snmp_timeout,telnet_username,telnet_password,telnet_retries,
telnet_timeout209.165.200.224,255.255.255.224,v3,default,HMAC-MD5,default,None,,3,4209.165.201.0,255.255.255.224,v3,
default1,HMAC-MD5,default1,DES,default1,3,4,Cisco,Cisco,2,10
```

CSV ファイルには、次のフィールドを含めることができます。

- ip_address
- network_mask
- snmp_version
- snmp_community
- snmpv3_user_name
- snmpv3_auth_type
- snmpv3_auth_password
- snmpv3_privacy_type
- snmpv3_privacy_password
- snmp_retries
- snmp_timeout
- telnet_username
- telnet_password
- enable_password
- telnet_retries
- telnet_timeout

Prime Infrastructure からの自律 AP の削除



(注) 何らかの理由により、Autonomous アクセス ポイントを交換する場合は、代替のアクセス ポイントをネットワークにインストールする前に Prime Infrastructure から Autonomous アクセス ポイントを削除します。

Prime Infrastructure から Autonomous アクセス ポイントを削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** 削除するアクセスポイントのチェックボックスをオンにします。関連付けられていない AP を選択します。
- ステップ 2** [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから、[AP の削除 (Remove APs)] を選択します。
-

自律型 AP の表示

Autonomous アクセス ポイントが追加されると、[Monitor]>[Access Points] ページに表示されます。

Autonomous アクセス ポイントをクリックすると、次のような詳細が表示されます。

- アクセス ポイントの操作ステータス
- 無線情報、チャンネル、電力、無線上のクライアント数などの主要な属性
- CDP 近隣情報

Autonomous アクセス ポイントは、[モニタ (Monitor)]>[マップ (Maps)] でも表示できます。

Autonomous アクセス ポイントをフロア領域に追加するには、[モニタ (Monitor)]>[マップ (Maps)] [フロア領域 (floor area)] を選択して、[コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから [アクセスポイントの追加 (Add Access Points)] を選択します。

TFTP を介した自律 AP へのイメージのダウンロード

Lightweight アクセス ポイント イメージは、コントローラ イメージにバンドルされており、コントローラによって管理されます。Autonomous アクセス ポイント イメージは、WLSE、CiscoWorks、または Prime Infrastructure などの NMS システムで処理する必要があります。

TFTP を使用してイメージを Autonomous アクセス ポイントにダウンロードするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [設定 (Configuration)]>[ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)]>[アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。
- ステップ 2** イメージをダウンロードする Autonomous アクセス ポイントのチェックボックスを選択します。[AP タイプ (AP Type)] 列には、Autonomous と Lightweight のいずれのアクセス ポイントであるかが表示されます。
- ステップ 3** [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから、[Autonomous AP イメージのダウンロード (TFTP) (Download Autonomous AP Image (TFTP))] を選択します。[Autonomous AP へのイメージのダウンロード (Download images to Autonomous APs)] ページが表示されます。
- ステップ 4** 次のパラメータを設定します。

- [ファイルの格納場所 (File is located on)] : [ローカル マシン (Local machine)] または [TFTP サーバ (TFTP server)] を選択します。
- [サーバ名 (Server Name)] : デフォルト サーバを選択するか、[サーバ名 (Server Name)] ドロップダウン リストから新しいサーバを追加します。
- [IP アドレス (IP address)] : TFTP サーバの IP アドレスを指定します。デフォルトのサーバを選択した場合は、これが自動的に入力されます。
- [Prime Infrastructure サーバ ファイルの場所 (Prime Infrastructure Server Files In)] : Prime Infrastructure サーバ ファイルのある場所を指定します。デフォルトのサーバを選択した場合は、これが自動的に入力されます。
- [サーバ ファイル名 (Server File Name)] : サーバ ファイル名を指定します。

ステップ 5 [ダウンロード (Download)] をクリックします。

ヒント 一部の TFTP サーバでは、32 MB を超えるファイルはサポートされません。

FTP を介した自律 AP へのイメージのダウンロード

イメージを自律型アクセスポイントに (FTP を使用して) ダウンロードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 イメージをダウンロードする Autonomous アクセス ポイントのチェックボックスを選択します。[AP タイプ (AP Type)] 列には、Autonomous と Lightweight のいずれのアクセス ポイントであるかが表示されます。

ステップ 3 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから、[Autonomous AP イメージのダウンロード (FTP) (Download Autonomous AP Image (FTP))] を選択します。[Autonomous AP へのイメージのダウンロード (Download images to Autonomous APs)] ページが表示されます。

ステップ 4 ユーザ名とパスワードを含む FTP クレデンシャルを入力します。

ステップ 5 [ダウンロード (Download)] をクリックします。

ワークグループブリッジ (WGB) モードの自律 AP の表示

Workgroup Bridge (WGB) モードは、Autonomous アクセスポイントがワイヤレスクライアントとして機能して、Lightweight アクセスポイントに接続する特殊なモードです。AP モードが [ブリッジ (Bridge)] に設定され、アクセスポイントがブリッジ対応である場合、WGB とその有線クライアントは、Prime Infrastructure にクライアントとしてリストされます。

WGB であるすべての Prime Infrastructure クライアントのリストを表示するには、**[モニター (Monitor)]** > **[クライアント (Clients)]** を選択します。[表示 (Show)] ドロップダウンリストから **[WGBクライアント (WGB Clients)]** を選択して、**[実行 (Go)]** をクリックします。**[クライアント (WGBとして検出) (Clients (detected as WGBs))]** ページが表示されます。ユーザをクリックして、特定の WGB とその有線クライアントに関する詳細な情報を表示します。



- (注) Prime Infrastructure は、Autonomous アクセスポイントが Prime Infrastructure によって管理されているかどうかにかかわらず、Autonomous アクセスポイントの WGB クライアント情報を提供します。WGB アクセスポイントも Prime Infrastructure によって管理されている場合、Prime Infrastructure は他の Autonomous アクセスポイントに類似したアクセスポイントに対する基本的なモニタリング機能を提供します。

AP イーサネット インターフェイスの設定



- (注) 152x メッシュ アクセスポイントは、ポート 0 PoE 入力、ポート 1 PoE 出力、ポート 2 ケーブル、およびポート 3 光ファイバの 4 つのポートのうちのいずれか 1 つで設定されます。その他の AP (1130、1140、1240、1250 など) はポート 2 ケーブルで設定されます。

イーサネット インターフェイスを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 **[設定 (Configuration)]** > **[ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)]** > **[アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)]** の順に選択します。

ステップ 2 **[AP 名 (AP Name)]** の下のリンクをクリックして、そのアクセスポイント名についての詳細情報を表示します。**[アクセスポイントの詳細 (Access Point Detail)]** ページが表示されます。

- (注) **[アクセスポイントの詳細 (Access Point Details)]** ページに、イーサネットインターフェイスのリストが表示されます。

ステップ 3 **[インターフェイス (Interface)]** の下のリンクをクリックすると、そのインターフェイスに関する詳細情報が表示されます。**[イーサネットインターフェイス (Ethernet Interface)]** ページが表示されます。

このページには、次のパラメータが表示されます。

- **[AP の名前 (AP Name)]** : アクセスポイントの名前。
- **[スロット ID (Slot Id)]** : スロット番号を示します。
- **[管理ステータス (Admin Status)]** : アクセスポイントの管理状態を示します。
- **[CDP ステート (CDP State)]** : CDP ステートを有効にするには、**[CDP ステート (CDP State)]** チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

CSV ファイルのインポートによる AP の設定

現在のアクセス ポイントのコンフィギュレーション ファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから、[AP のインポート (Import AP)] を選択します。

すべての Unified AP が CSV ファイルのみからインポートされることを示すポップアップアラートボックスが表示されます。Excel および XML ファイルからの Unified AP はインポートされません。

ステップ 3 [OK] をクリックして、ポップアップアラートボックスを閉じます。

ステップ 4 [実行 (Go)] をクリックします。

ステップ 5 テキストボックスに CSV ファイルのパスを入力するか、[参照 (Browse)] をクリックして、コンピュータで CSV ファイルにナビゲートします。

CSV ファイルの最初の行は、含まれている列の説明に使用されます。[AP イーサネット MAC アドレス (AP Ethernet Mac Address)] 列は必須です。このページのパラメータは、CSV ファイルで定義されていない列に使用されます。

ファイルヘッダーの例：

例：

```
AP Name,Ethernet MAC,Location,Primary Controller,Secondary Controller,Tertiary Controller
ap-1, 00:1c:58:74:8c:22, sjc-14-a, controller-4404-1, controller-4404-2, controller-4404-3
```

CSV ファイルには、次のフィールドを含めることができます。

- [AP イーサネット MAC アドレス (AP Ethernet MAC Address)] : 必須
- [AP 名 (AP Name)] : 省略可能
- [ロケーション (Location)] : 省略可能
- [プライマリ コントローラ (Primary Controller)] : 省略可能
- [セカンダリ コントローラ (Secondary Controller)] : 省略可能
- [ターシャリ コントローラ (Tertiary Controller)] : 省略可能

省略可能フィールドは空のままにできます。[AP 設定のインポート (AP Config Import)] は、空の省略可能フィールド値を無視します。ただし、primaryMwar と secondaryMwar エントリが空の場合は、ユニファイドアクセス ポイントの更新は完了していません。

- [イーサネット MAC (Ethernet MAC)] : AP イーサネット MAC アドレス
- [AP 名 (AP Name)] : AP 名

- [ロケーション (Location)] : AP ロケーション
- [プライマリ コントローラ (Primary Controller)] : プライマリ コントローラ名
- [セカンダリ コントローラ (Secondary Controller)] : セカンダリ コントローラ名
- [ターシャリ コントローラ (Tertiary Controller)] : ターシャリ コントローラ名

(注) 省略可能フィールドは空のままにできます。[AP 設定のインポート (AP Config Import)]は、空の省略可能フィールド値を無視します。ただし、primaryMwar と secondaryMwar エントリが空の場合は、ユニファイド アクセス ポイントの更新は完了していません。

ステップ 6 適切な CSV ファイルのパスが [CSV ファイルの選択 (Select CSV File)] テキスト ボックスに表示されたら、[OK] をクリックします。

自律 AP の詳細のエクスポート

現在のアクセス ポイントのコンフィギュレーション ファイルをエクスポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから、[AP 設定のエクスポート (Export AP Config)] を選択します。

すべての Unified AP が CSV/EXCEL/XML ファイルにエクスポートされることを示すポップアップ アラート ボックスが表示されます。

ステップ 3 [OK] をクリックして、ポップアップ アラート ボックスを閉じます。

ステップ 4 次のものを含む現在の AP 設定を表示するには、[実行 (Go)] をクリックします。

- a) AP 名
- b) イーサネット MAC (Ethernet MAC)
- c) 参照先
- d) プライマリ コントローラ (Primary Controller)
- e) セカンダリ コントローラ (Secondary Controller)
- f) ターシャリ コントローラ (Tertiary Controller)

ステップ 5 アクセス ポイント設定をエクスポートするには、ファイル オプション (CSV、Excel、XML) を選択します。

ステップ 6 [ファイルのダウンロード (File Download)] ウィンドウで、[保存 (Save)] をクリックしてファイルを保存します。

アクセスポイントでの CDP の設定

Cisco Discovery Protocol (CDP) は、すべてのシスコ製ネットワーク機器で実行されるデバイス検出プロトコルです。各デバイスはマルチキャストアドレスに識別メッセージを送信し、他のデバイスから送信されたメッセージをモニタします。



(注) CDP は、デフォルトでイーサネットと、ブリッジの無線ポートで有効です。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 ソフトウェア リリース 5.0 以降のコントローラに関連付けられたアクセスポイントを選択します。

ステップ 3 CDP を有効にする無線またはイーサネットインターフェイスのスロットをクリックします。

ステップ 4 インターフェイスで CDP を有効にするには、[CDP ステート (CDP State)] チェックボックスを選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

アクセスポイント XOR アンテナの設定

Prime Infrastructure には、特定のアンテナの使用を有効または無効にする機能があります。デフォルトでは、すべてのアンテナが有効になっています。

[設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択し、[無線 (Radio)] 列で [XOR (2.4 GHz) (XOR (2.4GHz))] または [XOR (5 GHz) (XOR(5GHz))] を選択すると、次のページが表示されます。

このページには、次のフィールドがあります。



(注) いずれかのフィールドを変更すると、無線が一時的に無効になり、一部のクライアントの接続が失われる場合があります。

一般

- [AP 名 (AP Name)] : アクセスポイントのオペレータ定義名。
- [AP ベース無線 MAC (AP Base Radio MAC)] : アクセスポイントのベース無線の MAC アドレス。

- [スロット ID (Slot ID)] : スロット ID。
- [管理ステータス (Admin Status)] : アクセスポイントの管理状態を有効するには、このボックスを選択します。
- [CDP状態 (CDP State)] : CDPを有効にするには、[CDP状態 (CDP State)] チェックボックスをオンにします。
- [コントローラ (Controller)] : コントローラの IP アドレス。詳細については、コントローラの IP アドレスをクリックします。
- [サイト設定 ID (Site Config ID)] : サイトの識別番号。
- [CleanAir 対応 (CleanAir Capable)] : アクセスポイントが CleanAir 対応かどうかが表示されます。
- [CleanAir] : ドロップダウンで、[両方無効 (Both Disabled)]、[5 GHz 有効 (5GHz Enabled)]、[2.4 GHz 有効 (2.4 GHz Enabled)]、および [両方有効 (Both Enabled)] から任意のオプションを選択します。

無線割り当て

- [割り当て方式 (Assignment Method)] : 割り当て方式は、[自動 (Auto)]、[運用 (Serving)]、または [モニタ (Monitor)] です。



(注) [帯域選択 (Band Selection)]、[RF チャネル割り当て (RF Channel Assignment)]、および [送信電力レベル割り当て (Tx Power Level Assignment)] は、[運用 (Serving)] 割り当て方式の場合にのみ表示されます。

- [帯域選択 (Band Selection)] : [2.4 GHz] または [5 GHz] いずれかの無線を選択できます。

アンテナ

[無線割り当て (Radio Assignment)] の選択内容に応じて、次のパラメータが表示されます。

- [アンテナタイプ (Antenna Type)] : アンテナタイプ [外部 (External)] または [内部 (Internal)] を示します。
- [XOR A アンテナ (XOR A Antenna)] : ([自動 (Auto)] 割り当て方式の場合にのみ表示されます)。ドロップダウンリストから [外部アンテナ (external antenna)] または [その他 (Other)] を選択します。
- [XOR B アンテナ (XOR B Antenna)] : ([自動 (Auto)] 割り当て方式の場合にのみ表示されます)。ドロップダウンリストから [外部アンテナ (external antenna)] または [その他 (Other)] を選択します。
- [外部アンテナ (External Antenna)] : ([運用 (Serving)] および [モニタ (Monitor)] 割り当て方式の場合にのみ表示されます)。ドロップダウンリストから [外部アンテナ (external antenna)] または [その他 (Other)] を選択します。ドロップダウンの値は、2.4 GHz 無線と 5 GHz 無線で異なります。

- [アンテナゲイン (Antenna Gain)]: ([運用 (Serving)]および[モニタ (Monitor)]割り当て方式の場合に表示されます)。テキストボックスに望ましいアンテナゲインを入力します。カスタムアンテナゲインを設定するには、[外部アンテナ (External Antenna)]オプションで[その他 (Others)]を選択します。



(注) 無線ネットワークアダプタに接続される指向性アンテナのピークゲイン (dBi) 、および全方向性アンテナの平均ゲイン (dBi) 。ゲインは 0.5dBi の倍数で表します。整数値 4 は、 $4 \times 0.5 = 2\text{dBi}$ のゲインであることを意味します。

RF チャンネル割り当て

次の [802.11a RF チャンネル割り当て (802.11a RF Channel Assignment)]パラメータは、無線割り当て方式として [運用 (Serving)]を選択した場合にのみ表示されます。

- [現在のチャンネル (Current Channel)]: アクセスポイントのチャンネル番号。
- [チャンネル幅 (Channel Width)]: 2.4 GHz 無線の場合は 20 MHz の無線のみがサポートされます。5 GHz 無線の場合は、[チャンネル幅 (Channel Width)]ドロップダウンリストから [20 MHz]、[40 MHz]、[80 MHz]、または [160 MHz] を選択します。
- [割り当て方式 (Assignment Method)]: 次のいずれかを選択します。
 - [グローバル (Global)]: アクセスポイントのチャンネルがコントローラによってグローバルに設定される場合は、この設定を使用します。
 - [カスタム (Custom)]: アクセスポイントのチャンネルがローカルで設定されている場合は、この設定を使用します。[カスタム (Custom)]ドロップダウンリストからチャンネルを選択します。ドロップダウンの値は 2.4 GHz 無線と 5 GHz 無線で異なります。

11n および 11ac のパラメータ

- [11n をサポート (11n Supported)]: 802.11n 無線がサポートされているかどうかを示します。
- [11ac をサポート (11ac Supported)]: 802.11ac 無線がサポートされているかどうかを示します。

パフォーマンス プロファイル

[URL] をクリックして、このアクセスポイントのインターフェイスのパフォーマンスプロファイルパラメータを表示または編集します。

- [ClientLink]: インターフェイスごとにアクセスポイントの無線のクライアントリンクを有効または無効にします。この機能は、従来の (直交周波数分割多重) OFDM レートのみでサポートされます。インターフェイスでは ClientLink がサポートされる必要があり、OFDM レートを有効にする必要があります。また、複数のアンテナを送信可能にして、3 つすべてのアンテナを受信可能にする必要があります。



- (注) サポートされるクライアントの最大数は 15 です。アンテナ設定により操作が 1 本の送信アンテナに制限されている場合、あるいは OFDM レートが無効になっている場合、ClientLink は使用できません。

送信電力レベル割り当て

- [現在の送信電力レベル (Current Tx Power Level)] : 現在の送信電力レベルを示します。
- [割り当て方式 (Assignment Method)] : 次のいずれかを選択します。
 - [グローバル (Global)] : 電力レベルがコントローラによってグローバルに設定されている場合は、この設定を使用します。
 - [カスタム (Custom)] : アクセスポイントの電力レベルがローカルで設定されている場合は、この設定を使用します。ドロップダウン リストから電力レベルを選択します。

11n アンテナ選択

Prime Infrastructure には、特定のアンテナの使用を有効または無効にする機能があります。デフォルトでは、すべてのアンテナが有効になっています。



- (注) 少なくとも 1 つの送信アンテナと 1 つの受信アンテナが有効である必要があります。すべての送信アンテナおよび受信アンテナを一度に無効にできません。

次のいずれかの [11n アンテナ選択 (11n Antenna Selection)] パラメータを設定します。

- Antenna A (アンテナ A)
- Antenna B (アンテナ B)
- Antenna C (アンテナ C)
- Antenna D (アンテナ D)

[11n] パラメータ

次の [11n] フィールドが表示されます。

- [11n をサポート (11n Supported)] : 802.11n の無線がサポートされているかどうかを示します。
- [クライアントリンク (ClientLink)] : クライアントリンクを有効または無効にするには、このオプションを使用します。ドロップダウン リストから [有効 (Enable)]、[無効 (Disable)]、または [該当なし (Not Applicable)] を選択します。

ワイヤレス チョークポイントを使用したタグ付きアセットの追跡

チョークポイントは、低周波の送信デバイスです。配置されたチョークポイントの範囲内でタグが渡されると、低周波電磁界がタグを認識し、チョークポイントデバイス ID を含むメッセージを Cisco Unified Wireless Network 経由で送信します。送信されるメッセージには、センサー情報（温度や圧力など）が含まれます。チョークポイント ロケーションシステムは、部屋レベルの精度（ベンダーによって数インチから 2 フィートまで）を提供します。

チョークポイントは、チョークポイントのベンダーによって推奨されるとおりに設置および設定されます。チョークポイントのインストールが完了して動作可能になったら、チョークポイントをロケーションデータベースに入力して、Prime Infrastructure マップ上に表示できます。

AP のコピーおよび置き換え

[APのコピーおよび置換 (Copy and Replace AP)] 機能は、アクセス ポイントをネットワークから削除して、別のアクセスポイントと交換する必要がある場合に役立ちます。次のアクセスポイント設定パラメータが古い AP から新しい AP にコピーされます。

- コントローラ コンフィギュレーション
- スタティック IP 設定
- AP グループ
- 参照先
- AP 名
- パフォーマンス プロファイル
- アンテナ角度パラメータ



- (注)
- AP 名には、(カンマ) を含めないでください。動作に支障が生じます。
 - MAC アドレスには、基礎無線 MAC またはイーサネット MAC のいずれかを指定できません。

単一の AP をコピーして置換するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [APのコピーおよび置換 (Copy and Replace APs)] の順に選択します。

- ステップ2 [タイプを選択 (Select Type)] 領域で、[単一APのコピー (Single AP Copy)] オプションボタンをクリックします。
- ステップ3 [置換元AP (Source AP)] と、それと交換する [置換先AP (Destination AP)] を選択します。
- ステップ4 マップ上の位置をコピーする場合は、[位置のコピー (Copy Location)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ5 [送信 (Submit)] をクリックします。

APの一括でのコピーおよび置換

CSVファイルを使用して複数のAPを一括で置換するには、次の手順を実行します。

- ステップ1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [APのコピーおよび置換 (Copy and Replace APs)] の順に選択します。
- ステップ2 [タイプを選択 (Select Type)] 領域で、[一括コピー (Bulk Copy)] オプションボタンをクリックします。
- ステップ3 [ファイルの選択 (Choose File)] ボタンをクリックします。
- ステップ4 必要なCSVファイルまで移動して [開く (Open)] をクリックします。
- (注) CSVファイルの必須の列は、Disassociated_MAC_Address(Source) および Associated_MAC_Address(Destination) のみです。
- ステップ5 [送信 (Submit)] をクリックします。

APの削除

関連付けられていないアクセスポイントを削除するには、次の手順を実行します。

- ステップ1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。
- ステップ2 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから、[APの削除 (Remove APs)] を選択します。
- ステップ3 [実行 (Go)] をクリックします。
- ステップ4 [OK] をクリックして、削除を確定します。

AP オンボーディング プロファイルの設定

APがMEコントローラに参加し、検出されると、Prime Infrastructureでは、APを自動的にプロビジョニングできます。AP オンボーディング機能は、このように検出したAPでAP名およびAPグループを自動的に設定します。このプロセスでは、Prime InfrastructureのAP名および

他のコンフィギュレーションパラメータを設定する必要が削除されるため、クライアントとして機能します。Prime Infrastructure は AP オンボーディング プロファイルを使用して、PI の AP を事前に設定します。

AP オンボーディング サービス プロセス

Prime Infrastructure が新しい AP を検出した場合、または既存の AP との関連性を検出した場合は、この特定の AP のアクティブなオンボーディングプロファイルが存在するかどうかをチェックします。アクティブなプロファイルが検出されると、Prime Infrastructure は次の手順を実行します。

1. プロファイル変更を [処理中 (in-progress)] とマークします。
2. プロファイルの AP 名を設定します。
3. オンボーディング プロファイルに記載されている AP テンプレートを展開します。
4. すべての AP テンプレートが展開されると、プロファイルは完了とマークされ、ステータスが成功または失敗に設定されます。

関連トピック

[AP オンボーディング プロファイル グループの作成](#) (18 ページ)

[AP オンボーディング プロファイルの編集](#) (19 ページ)

[AP オンボーディング プロファイルの削除](#) (20 ページ)

AP オンボーディング プロファイル グループの作成

単一の AP オンボーディング プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ 2 [プロファイルを追加 (Add Profile)] をクリックします。

ステップ 3 次の必要な詳細情報を入力します。

- [プロファイルグループ (Profile Group)] (デフォルトでは割り当てなし)
- [イーサネット MAC アドレス/シリアル番号 (Ethernet MAC Address/ Serial Number)]
- [AP 名 (AP Name)] : AP が検出されたときに AP に対して設定する名前。
- [コントローラの選択 (Controller Selection)] : AP がこのコントローラに参加する場合のみ、このプロファイルを適用します。このような制限をしない場合は、[任意 (Any)] を選択します。
- [AP テンプレート (AP Template)] : AP にプッシュする AP テンプレートの名前。AP テンプレートは 3 つまで選択できます。
- [プロファイルモード (Profile Mode)] (デフォルトで有効)

ステップ4 [保存 (Save)]をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの一括作成

AP オンボーディング プロファイルを一括アップロードの .csv ファイルで作成するには、次の手順に従います。

ステップ1 [設定 (Configuration)]>[ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)]>[APオンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)]の順にクリックします。

ステップ2 [新規プロファイル (New Profile)]>[一括追加 (Bulk Add)]の順にクリックします。

ステップ3 [ファイルの選択 (Choose File)]をクリックしてウィザードを開きます。必要な .csv ファイルまで移動して選択します。

[サンプルCSVのダウンロード (Download Sample CSV)]をクリックして、サンプル .csv ファイルをダウンロードします。

ステップ4 既存のエントリを上書きするには、[既存のエントリを上書き (Override Existing Entries)]チェックボックスをオンにします。

ステップ5 [保存 (Save)]をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの編集

プロファイル モードを編集、複製、展開、または変更するには、次の手順に従います。



(注) プロファイルの状態が [進行中 (in-progress)] である場合、そのプロファイルは編集または変更できません。

ステップ1 [設定 (Configuration)]>[ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)]>[APオンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)]の順にクリックします。

ステップ2 関連するプロファイル グループをクリックします。

ステップ3 編集するプロファイル (1 つまたは複数) を選択します。

ステップ4 [プロファイルの編集 (Edit Profile)]をクリックします。

複数のプロファイルを選択している場合、[AP名 (AP Name)]および[プロファイルモード (Profile Mode)] は編集できません。

ステップ5 必須フィールドを編集して [保存 (Save)]をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの変更

プロファイル モードを編集、複製、展開、または変更するには、次の手順に従います。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ 2 関連するプロファイル グループをクリックします。

ステップ 3 変更するプロファイル (1 つまたは複数) を選択します。

ステップ 4 次のタスクから選択します。

- [プロファイルの複製 (Duplicate Profile)] : プロファイルを複製します。
(注) 複数のプロファイルを一斉に複製することはできません。
- [プロファイルの削除 (Delete Profiles)] : プロファイル (1 つまたは複数) を削除します。
- [プロファイルの編集 (Edit Profiles)] : プロファイル (1 つまたは複数) を編集します。
- [プロファイルモード/状態の変更 (Change Profile Mode/Status)] : プロファイル モードを [有効 (Enable)]、[保留中 (Pending)]、または [無効 (Disable)] に変更します。
(注) プロファイルモードを [完了 (Completed)] に変更することと、状態が [進行中 (in-progress)] であるプロファイルのプロファイル モードを変更することはできません。
- [展開 (Deploy)] : プロファイルを展開します。

AP オンボーディング プロファイルの削除

既存の AP オンボーディング プロファイル グループを削除するには、次の手順に従います。



- (注) プロファイルの状態が [進行中 (in-progress)] である場合、そのプロファイルは削除できません。

手順の概要

1. [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。
2. 削除するプロファイル グループを選択します。
3. [プロファイルグループの削除 (Delete Profile Groups)] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [APオンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。
- ステップ 2 削除するプロファイル グループを選択します。
- ステップ 3 [プロファイルグループの削除 (Delete Profile Groups)] をクリックします。

AP 無線ステータス変更のスケジュール設定

無線ステータスの変更スケジュールを設定する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1 [設定 (Configure)] > [アクセスポイント (Access Points)] の順に選択します。
- ステップ 2 該当するアクセス ポイントのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから、[無線ステータスのスケジュール設定 (Schedule Radio Status)] を選択します。
- ステップ 4 [実行 (Go)] をクリックします。
- ステップ 5 [管理ステータス (Admin Status)] ドロップダウン リストから、[有効 (Enable)] または [無効 (Disable)] を選択します。
- ステップ 6 [時 (Hours)] および [分 (Minutes)] ドロップダウン リストを使用して、スケジュール時間を決定します。
- ステップ 7 カレンダー アイコンをクリックして、ステータス変更の予定日を選択します。
- ステップ 8 タスクを周期的に繰り返して実行する場合は、[毎日 (Daily)] または [毎週 (Weekly)] を選択します。タスクを一度だけ実行する場合は、[繰り返しなし (No Recurrence)] を選択します。
- ステップ 9 [保存 (Save)] を選択して、スケジュール設定したタスクを確定します。

スケジュール済み AP 無線ステータス変更の表示

現在スケジュール設定されている無線ステータスタスクを表示する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1 [設定 (Configure)] > [アクセスポイント (Access Points)] の順に選択します。
- ステップ 2 該当するアクセス ポイントのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから、[スケジュール設定された無線タスクを表示する (View Schedules Radio Task(s))] を選択します。
- ステップ 4 [実行 (Go)] をクリックします。
スケジュール設定済みのタスクに関する次の情報が表示されます。

1. [スケジュール済みタスク (Scheduled Task(s))]: そのアクセスポイントとアクセスポイント無線を表示するタスクを選択します。
2. [スケジュール済み無線管理ステータス (Scheduled Radio admin Status)]: ステータス変更 ([有効 (Enable)] または [無効 (Disable)]) を示します。
3. [スケジュール時刻 (Schedule Time)]: スケジュールタスクの発生時間を示します。
4. [実行ステータス (Execution status)]: タスクがスケジュール設定されているかどうかを示します。
5. [繰り返し (Recurrence)]: タスクが繰り返し実行されるようにスケジュール設定している場合は、その周期 ([毎日 (Daily)] または [毎週 (Weekly)]) を示します。
6. [次の実行 (Next Execution)]: タスクの次の実行日時を示します。
7. [最終実行日時 (Last Execution)]: タスクの最後の実行日時を示します。
8. [スケジュール解除 (Unschedule)]: スケジュール設定されているタスクをキャンセルする場合は、[スケジュール解除 (Unschedule)] をクリックします。[OK] をクリックして、キャンセルを確定します。

APの監査ステータスの表示

[設定 (Configure)] > [アクセスポイント (Access Points)] ページの [監査ステータス (Audit Status)] 列には、各アクセスポイントの監査ステータスが表示されます。選択したアクセスポイントの監査レポートも確認できます。レポートには、監査の時刻、選択したアクセスポイントの IP アドレス、および同期ステータスが表示されます。

監査ステータスを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configure)] > [アクセスポイント (Access Points)] の順に選択します。

ステップ 2 [監査ステータス (Audit Status)] 列の値をクリックして、選択したアクセスポイントの最新の監査詳細ページへ移動します。このレポートは、インタラクティブでアクセスポイントごとになっています。

(注) マウスカーソルを [監査ステータス (Audit Status)] 列の値の上に置くと、最新監査の時刻が表示されます。

アクセスポイントのオンデマンドの監査レポートを実行するには、レポートを実行する目的のアクセスポイントを選択し、[コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから [今すぐ監査する (Audit Now)] を選択します。4.1 よりも前のバージョンでは、監査は [AP の詳細と AP インターフェイスの詳細 (AP Details and AP Interface Details)] ページのパラメータに限られていました。リリース 4.1 では、この監査レポートはアクセスポイント全体レベルの監査を対象としています。監査結果はデータベースに保存されるので、もう一度監査を実行しなくても最新の監査レポートを確認できます。



(注) 監査は、コントローラに関連付けられているアクセス ポイント上でだけ実行できます。

アクセス ポイントの検索

カスタム検索を作成して保存するには、ページの右上隅にある検索オプションを使用します。

- [新規検索 (New Search)] : IP アドレス、名前、SSID、または MAC を入力して、[検索 (Search)] をクリックします。
- [保存した検索 (Saved Searches)] : [保存した検索 (Saved Search)] をクリックして、カテゴリ、保存したカスタム検索を選択するか、ドロップダウンリストから他の検索基準を選択します。
- [詳細検索 (Advanced Search)] : 詳細検索では、さまざまなカテゴリとフィルタに基づいてデバイスを検索できます。

[実行 (Go)] をクリックすると、アクセス ポイントの検索結果が表示されます (表 1: アクセス ポイントの検索結果 (23 ページ) を参照)。

表 1: アクセス ポイントの検索結果

フィールド	オプション
[IP アドレス (IP Address)]	アクセス ポイントの IP アドレス。
[イーサネット MAC (Ethernet MAC)]	アクセス ポイントの MAC アドレス。
AP 名	アクセス ポイントに割り当てられた名前。詳細を表示するには、アクセス ポイント名の項目をクリックします。
[無線 (Radio)]	アクセス ポイントのプロトコルは、802.11a/n または 802.11b/g/n のどちらかです。
[マップ位置 (Map Location)]	キャンパス、ビルディング、またはフロアの位置。
[コントローラ (Controller)]	コントローラの IP アドレス。
[AP タイプ (AP Type)]	アクセス ポイントの無線周波数の種類。
[動作ステータス (Operational Status)]	Cisco 無線の動作ステータスを表示します ([アップ (Up)] または [ダウン (Down)])。

フィールド	オプション
[アラーム ステータス (Alarm Status)]	アラームのカラー コードは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 透明 = アラームなし • 赤 = クリティカル アラーム • オレンジ = メジャー アラーム • 黄 = マイナー アラーム
[監査ステータス (Audit Status)]	アクセス ポイントの監査ステータス。
シリアル番号 (Serial Number)	アクセス ポイントのシリアル番号。
[AP モード (AP Mode)]	ローカル、FlexConnect、モニタ、不正検出、スニファ、ブリッジ、SE 接続などのアクセス ポイント モードの役割について説明します。

メンテナンス状態における AP のアラームの表示

Prime Infrastructure は、クリティカルアラームを使用して、管理対象アクセス ポイントがダウンしているかどうかを追跡します。コントローラは、次のことが発生した場合に、3つの異なるアラームを送信します。

- アクセス ポイントがダウンになる
- アクセス ポイントの無線 A がダウンになる
- アクセス ポイントの無線 B/G がダウンになる

リリース 7.0.172.0 以降では、これらの3つのアラームは単一のアラームにグループ化されます。

アクセス ポイントの技術メンテナンス中は、クリティカルアラームの優先順位付けを解除する必要があります。アクセス ポイントのアラームの重大度の優先順位付けを解除するには、**[設定 (Configure)] > [アクセスポイント (Access Points)]** ページを使用します。アクセス ポイントをメンテナンス ステートに移行すると、そのアクセス ポイントのアラーム ステータスは黒色で表示されます。

AP をメンテナンス状態にする

アクセス ポイントをメンテナンス ステートに移行するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 **[Prime Infrastructure] > [設定 (Configure)] > [アクセスポイント (Access Points)]** を選択します。

[アクセス ポイント (Access Points)] ページが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウンリストから **[メンテナンス ステートに移行 (Place in Maintenance State)]** を選択して、**[実行 (Go)]** をクリックします。

アクセス ポイントがメンテナンス ステートに移行されます。

アクセス ポイントがメンテナンス ステートに移行されると、アクセス ポイント ダウン アラームは、重大よりも低い重大度で処理されます。

メンテナンス状態からの AP の削除

アクセス ポイントをメンテナンス ステートから削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Prime Infrastructure] > [設定 (Configure)] > [アクセスポイント (Access Points)] を選択します。

[アクセス ポイント (Access Points)] ページが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リストから [メンテナンス ステートから削除 (Remove from Maintenance State)] を選択して、[実行 (Go)] をクリックします。

アクセス ポイントがメンテナンス ステートから削除されます。

ワイヤレス設定グループ

ワイヤレス設定グループ ワークフローは、Cisco Prime Infrastructure で使用できる WLAN コントローラ設定グループ機能のワークフローを改良したものです。改良されたワイヤレス設定ワークフローで実現できることは次のとおりです。

- デバイス固有のテンプレートを選擇する。
- 複数のデバイスに複数のテンプレートを展開する。
- PI から複数のワイヤレス テンプレートを監査する。



(注) CLI テンプレートおよびゲストユーザはワイヤレス設定グループから展開することはできません。

新しい設定グループの作成

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] の順に選択します。

ステップ 2 新しい設定グループを作成するには、[作成 (Create)] をクリックします。

[設定グループ ワークフロー (Configuration Group Workflow)] ウィザードが表示されます。

- ステップ 3** [一般設定 (General Configuration)] タブで、設定グループ名を入力して [次へ (Next)] をクリックします。
[テンプレートの選択 (Select Template)] タブが表示されます。
- ステップ 4** [テンプレートの選択 (Select Template)] タブで、[デバイス タイプ (Device Type)] として [CUWN] または [CUWN-IOS] と [UA] を選択します。
- ステップ 5** [テンプレート (Templates)] ツリー ビュー > [マイ テンプレート (My Templates)] から [選択したテンプレート (Selected Template(s))] グループ ボックスにテンプレートまたはグループをドラッグアンドドロップします。
- [選択したテンプレート (Selected Template(s))] グループ ボックスに、[テンプレート (Templates)] ツリー ビューから追加したテンプレートまたはグループがリストされます。
- ステップ 6** 設定グループを保存してワークフローを終了するには、[保存して終了 (Save and Quit)] をクリックします。
- ステップ 7** 設定グループを保存して選択したテンプレートを展開するには、[次へ (Next)] をクリックします。
[デバイスの選択 (Select Devices)] タブが表示されます。
- ステップ 8** [デバイスの選択 (Select Devices)] タブに、選択したデバイス タイプに基づいてコントローラがリストされます。
- ステップ 9** [デバイス名 (Device Name)] チェックボックスをオンにし、[展開 (Deploy)] をクリックします。
展開に成功すると、[ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] リスト ページが表示されます。

[ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] ページには、展開されたデバイスに関する次の詳細が表示されます。

- グループ名 (Group Name)
- 最後に展開されたデバイスの数 (Last Deployed Devices Count)
- [テンプレート数 (Templates Count)]
- [最後の展開ステータス (Last Deploy Status)]
 - 未開始 (Not Initiated) : テンプレートがいずれかのデバイスに展開されているかどうかを示します。
 - 成功 (Success) : 該当する IP アドレスに関連する正常なテンプレートの数を示します。
 - 一部成功/失敗 (Partial Success / Failure) : 該当するコントローラへのテンプレートのプロビジョニングが失敗した数を示します。失敗の理由を確認するには、[一部成功/失敗 (Partial Success/Failure)] リンクをクリックします。
- [最後の展開解除ステータス (Last Undeploy status)]
- [最後の監査ステータス (Last Audit Status)]
- [バックグラウンド監査 (Background Audit)] : [オン (On)]/[オフ (Off)] を切り替えてバックグラウンド監査を有効にします。これをオンにすると、このグループに含まれるすべてのテンプレートが、ネットワークとコントローラの監査中にコントローラと対照して監査されます。

- [適用 (Enforcement)] : [オン (On)]/[オフ (Off)] を切り替えて適用を有効にします。[適用 (Enforcement)] をオンにすると、何らかの矛盾が見つかった場合は監査中にテンプレートが自動的に適用されます。
- [最終変更日 (Last Modified On)]
- [最終適用日 (Last Applied On)]

ワイヤレス設定グループでのテンプレートの追加または削除

[設定グループの監査 (Config Groups Audit)] ページを使用すると、コントローラ設定がグループテンプレートに従っているかどうかを確認できます。監査中は、この画面を離れたり、Cisco Prime Infrastructure からログアウトしたりできます。プロセスは継続され、後でこのページに戻りレポートを表示できます。



(注) 監査中は、その他の設定グループの機能は実行しないでください。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] の順に選択します。

(注) [コントローラリスト (Controller List)] ページで、[コントローラリスト (Controller List)] 列にある情報アイコンをクリックし、次にエクスポートアイコンをクリックすると、設定グループが設定されたコントローラの詳細を含む CSV ファイルをダウンロードできます。

ステップ 2 [グループ名 (Group Name)] チェック ボックスをオンにし、[編集 (Edit)] をクリックします。

ステップ 3 設定グループ ワークフロー ウィザードで、[テンプレートの選択 (Select Templates)] タブをクリックします。

ステップ 4 [CUWN] または [CUWN-IOS] を選択します。

- [テンプレート (Templates)] ツリービューから [選択したテンプレート (Selected Template(s))] グループ ボックスに、テンプレートまたはグループをドラッグ アンド ドロップします。
- [選択したテンプレート (Selected Template(s))] グループ ボックスに、[テンプレート (Templates)] ツリービューから追加した、選択したテンプレートまたはグループがリストされます。

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 [デバイスリスト (Device List)] ページで、設定グループを設定するデバイスを選択します。

ステップ 7 [展開 (Deploy)] をクリックして、選択したコントローラに設定グループを展開します。または、[保存して終了 (Save and Quit)] をクリックして設定します。

[最後に展開された時刻 (Last Deployed Time)]列には、グループが展開されたコントローラにはタイムスタンプが表示され、グループが設定されただけのコントローラには[展開なし (Not Deployed)]と表示されます。

ワイヤレス設定グループの監査

[設定グループの監査 (Config Groups Audit)]ページを使用すると、コントローラ設定がグループテンプレートに従っているかどうかを確認できます。監査中は、この画面を離れたり、Cisco Prime Infrastructure からログアウトしたりできます。プロセスは継続され、後でこのページに戻りレポートを表示できます。



(注) 監査中は、その他の設定グループの機能は実行しないでください。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] の順に選択します。

ステップ 2 [グループ名 (Group Name)] チェックボックスをオンにし、[監査 (Audit)] をクリックします。
[デバイスの選択 (Select Devices)] ページが表示されます。

ステップ 3 [デバイス名 (Device Name)] チェックボックスをオンにし、[監査 (Audit)] をクリックします。
レポートが生成され、各コントローラの現在の設定が設定グループのテンプレートと比較されます。レポートには監査ステータス、同期テンプレートの数、非同期テンプレートの数が表示されます。

- [監査ステータス (Audit Status)]
 - [未開始 (Not Initiated)]
 - [成功 (Success)] : 該当する IP アドレスに関連するテンプレートの数が同期しているかどうかを示します。
 - [非同期 (Not In Sync)] : 該当するコントローラへのテンプレートのプロビジョニングが失敗した数を示します。[同期していない (Not In Sync)] をクリックし、詳細を確認します。

メッシュ ネットワークにおけるリンクの表示

メッシュリンクの詳細には、次のいくつかの方法でアクセスできます。

- Prime Infrastructure ホーム ページで [メッシュ (Mesh)] ダッシュボードをクリックします。

- [モニタ (Monitor)] > [アクセスポイント (Access Points)] の順に選択して、[メッシュリンク (Mesh Links)] タブをクリックしてから、[詳細 (Details)] リンクをクリックします
- Google Earth から KML ファイルをインポートした後で、[APメッシュ (AP Mesh)] リンクをクリックします

ページの上部に、現在の統計、その後に特定の統計の図が表示されます。

- [SNR グラフ (SNR Graph)] : [SNR Up] および [SNR Down] グラフは 1 つのグラフに結合されています。各データセットは、別の色で表されます。
- [リンクメトリックグラフ (Link Metrics Graph)] : [調整済みリンクメトリック (Adjusted Link Metric)] と [未調整のリンクメトリック (Unadjusted Link Metric)] は 1 つのグラフに結合されています。各データセットは、別の色で表されます。
- [パケットエラーレートグラフ (Packet Error Rate Graph)] : パケットエラーレートをグラフで表示します。
- [リンクイベント (Link Events)] : リンクの最近 5 つのイベントが表示されます。
- [メッシュのワースト SNR リンク (Mesh Worst SNR Links)] : 最低信号対雑音比 (SNR) リンクが表示されます。
- [AP稼働時間 (AP Uptime)] : これらの統計は、アクセスポイントが頻繁にリポートされるかどうかを判別するために役立ちます。
- [LWAPP 接続所要時間 (LWAPP Join Taken Time)] : これらの統計は、アクセスポイントの追加に要する時間を判別します。
- [ロケーションリンク (Location Links)] : Prime Infrastructure マップまたは Google Earth のロケーションに移動できます。

コントローラの不正 AP 分類ルールの定義

単一の WLC で、不正アクセスポイントの現在の分類ルールを表示または編集できます。

不正アクセスポイント分類ルールにアクセスするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configure)] > [コントローラ (Controllers)] を選択します。

ステップ 2 [IP アドレス (IP Address)] 列で IP アドレスをクリックします。

ステップ 3 左側のサイドバーのメニューから、[セキュリティ (Security)] > [不正 AP のルール (Rogue AP Rules)] を選択します。[不正 AP ルール (Rogue AP Rules)] 画面に、不正アクセスポイントの分類ルール、ルールタイプ ([悪意のある (Malicious)] または [危険性のない (Friendly)])、およびルールの順序が表示されます。

ステップ 4 ルールの詳細を表示または編集するには、[不正 AP ルール (Rogue AP Rule)] を選択します。

コントローラの自動プロビジョニングを使用した WLC の追加と置換

Prime Infrastructure では、自動プロビジョニングのサポートによって WLAN の展開を簡素化します。自動プロビジョニングでは、Prime Infrastructure による Cisco Wireless LAN Controller (WLC) の新規設定や切り替えを自動化できます。Prime Infrastructure の自動プロビジョニング機能を使用すると、多数のコントローラから構成される顧客向けの展開を簡素化できます。



(注) コントローラの無線および b/g ネットワークは、Prime Infrastructure のスタートアップコンフィギュレーションファイルによって当初は無効になっています。必要に応じて、自動化テンプレートの1つとして含まれているテンプレートを使用し、それらの無線ネットワークを有効にできます。

コントローラ自動プロビジョニング リストの表示

[自動プロビジョニングフィルタ (Auto Provision Filters)] ページでは、自動プロビジョニングフィルタを作成して編集することで、Prime Infrastructure による自動プロビジョニングや自動モニタを許可するデバイスのリストを定義できます。

自動プロビジョニングの権限を有効にするには、管理者、ルート、またはスーパー ユーザステータスが必要です。ユーザの自動プロビジョニング権限を有効または無効にするには、Prime Infrastructure の [管理 (Administration)] > [ユーザロールおよびAAAユーザグループ (User Roles & AAA User Groups)] > [グループ名 (group name)] > [許可されているタスクのリスト (List of Tasks Permitted)] で、許可されているタスクを編集します。各チェックボックスをオンまたはオフにして、これらの権限の有効と無効を切り替えます。

フィルタ パラメータは次のとおりです。

パラメータ	説明
フィルタ名 (Filter Name)	フィルタの名前を識別します。
フィルタの有効状態 (Filter Enable)	フィルタが有効かどうかを示します。 有効にしたフィルタのみを自動プロビジョニングプロセスに追加できます。
モニタのみ (Monitor Only)	選択した場合、このフィルタで定義された Cisco WLC は Prime Infrastructure で管理されますが、自動プロビジョニング処理中に Cisco WLC が Prime Infrastructure と通信する場合、Prime Infrastructure で設定されることはありません。

パラメータ	説明
フィルタ モード (Filter Mode)	このフィルタの検索モード ([ホスト名 (Host Name)]、[MAC アドレス (MAC Address)]、または [シリアル番号 (Serial Number)]) を示します。
設定グループ名 (Config Group Name)	設定グループの名前を示します。 自動プロビジョニングフィルタで使用されるすべての設定グループで、コントローラが定義されてはなりません。

コントローラの自動プロビジョニング フィルタの作成

自動プロビジョニング フィルタ コンテンツを指定するには、アプリケーションに直接詳細を入力するか、CSV ファイルから詳細をインポートします。自動プロビジョニング機能は、5500 シリーズのコントローラと 5500 シリーズ以外のコントローラをサポートしています。5500 シリーズ以外のコントローラでは、AP マネージャ インターフェイスのコンフィギュレーション情報が定義されているのに対し、5500 シリーズのコントローラにはこの情報がありません。

自動プロビジョニング フィルタを追加するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [WLAN コントローラの自動プロビジョニング (WLAN Controller Auto Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 [コマンドの選択 (Select a Command)] ドロップダウン リストから [フィルタの追加 (Add Filter)] を選択し、[実行 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 必須パラメータを入力します。
動的インターフェイス コンフィギュレーションとデバイス固有コンフィギュレーションの詳細は、CSV ファイルを入力するときのみ指定します。これら 2 つのコンフィギュレーションは、グラフィカル ユーザ インターフェイスでは設定できません。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
デフォルトのユーザ名とパスワードを変更するには、ステップ 5 ~ 8 の説明に従って、管理ユーザを削除してから再作成する必要があります。
- ステップ 5 デフォルトのユーザ名とパスワードを変更するには、ローカル管理ユーザテンプレートを使用して、コントローラに新規の読み取り/書き込みユーザを作成する必要があります。ステップ 6 に示すように、新しいユーザを作成し、デフォルトの管理ユーザを削除できるようにする必要があります。
- ステップ 6 [インベントリ (Inventory)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [ネットワーク デバイス (Network Devices)] を選択し、[設定 (Configuration)] タブをクリックした後、[管理 (Management)] > [ローカル管理ユーザ (Local Management User)] を選択して管理ユーザを選択します。その後、[コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから [ローカル管理ユーザの削除 (Delete Local Management User)] を選択して [実行 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7 ローカル管理ユーザ テンプレートを使用して、コントローラに新しい管理ユーザを作成します。

ステップ8 ステップ5で作成したユーザを削除します。

コントローラの自動プロビジョニングに使用されるプライマリキーの検索順序の制御

[プライマリ検索キー設定 (Primary Search Key Setting)] を使用して、一致条件の検索順序を設定します。

ステップ1 [設定 (Configuration)] > [プラグアンドプレイ (Plug and Play)] > [コントローラ自動プロビジョニング (Controller Auto Provisioning)] を選択し、左側のサイドバーのメニューから [設定 (Setting)] を選択します。

ステップ2 該当する検索キーをクリックして強調表示し、[上へ移動 (Move Up)] または [下へ移動 (Move Down)] ボタンを使用して、検索キーの優先順位を変更します。

ステップ3 [保存 (Save)] をクリックして、変更を確定します。

AP オンボーディング プロファイルの設定

AP が ME コントローラに参加し、検出されると、Prime Infrastructure では、AP を自動的にプロビジョニングできます。AP オンボーディング機能は、このように検出した AP で AP 名および AP グループを自動的に設定します。このプロセスでは、Prime Infrastructure の AP 名および他のコンフィギュレーションパラメータを設定する必要性が削除されるため、クライアントとして機能します。Prime Infrastructure は AP オンボーディングプロファイルを使用して、PI の AP を事前に設定します。

AP オンボーディング サービス プロセス

Prime Infrastructure が新しい AP を検出した場合、または既存の AP との関連性を検出した場合は、この特定の AP のアクティブなオンボーディングプロファイルが存在するかどうかをチェックします。アクティブなプロファイルが検出されると、Prime Infrastructure は次の手順を実行します。

1. プロファイル変更を [処理中 (in-progress)] とマークします。
2. プロファイルの AP 名を設定します。
3. オンボーディングプロファイルに記載されている AP テンプレートを展開します。
4. すべての AP テンプレートが展開されると、プロファイルは完了とマークされ、ステータスが成功または失敗に設定されます。

関連トピック

[AP オンボーディング プロファイル グループの作成](#) (18 ページ)

[AP オンボーディング プロファイルの編集](#) (19 ページ)

[AP オンボーディング プロファイルの削除](#) (20 ページ)

AP オンボーディング プロファイル グループの作成

単一の AP オンボーディング プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ 2 [プロファイルを追加 (Add Profile)] をクリックします。

ステップ 3 次の必要な詳細情報を入力します。

- [プロファイルグループ (Profile Group)] (デフォルトでは割り当てなし)
- [イーサネット MAC アドレス/シリアル番号 (Ethernet MAC Address/ Serial Number)]
- [AP 名 (AP Name)] : AP が検出されたときに AP に対して設定する名前。
- [コントローラの選択 (Controller Selection)] : AP がこのコントローラに参加する場合のみ、このプロファイルを適用します。このような制限をしない場合は、[任意 (Any)] を選択します。
- [AP テンプレート (AP Template)] : AP にプッシュする AP テンプレートの名前。AP テンプレートは 3 つまで選択できます。
- [プロファイルモード (Profile Mode)] (デフォルトで有効)

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの一括作成

AP オンボーディング プロファイルを一括アップロードの .csv ファイルで作成するには、次の手順に従います。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ 2 [新規プロファイル (New Profile)] > [一括追加 (Bulk Add)] の順にクリックします。

ステップ 3 [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックしてウィザードを開きます。必要な .csv ファイルまで移動して選択します。

[サンプル CSV のダウンロード (Download Sample CSV)] をクリックして、サンプル .csv ファイルをダウンロードします。

ステップ 4 既存のエントリを上書きするには、[既存のエントリを上書き (Override Existing Entries)] チェックボックスをオンにします。

ステップ5 [保存 (Save)]をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの編集

プロファイルモードを編集、複製、展開、または変更するには、次の手順に従います。



(注) プロファイルの状態が [進行中 (in-progress)] である場合、そのプロファイルは編集または変更できません。

ステップ1 [設定 (Configuration)]>[ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)]>[APオンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)]の順にクリックします。

ステップ2 関連するプロファイルグループをクリックします。

ステップ3 編集するプロファイル (1つまたは複数) を選択します。

ステップ4 [プロファイルの編集 (Edit Profile)]をクリックします。

複数のプロファイルを選択している場合、[AP名 (APName)]および[プロファイルモード (Profile Mode)]は編集できません。

ステップ5 必須フィールドを編集して [保存 (Save)]をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの変更

プロファイルモードを編集、複製、展開、または変更するには、次の手順に従います。

ステップ1 [設定 (Configuration)]>[ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)]>[APオンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)]の順にクリックします。

ステップ2 関連するプロファイルグループをクリックします。

ステップ3 変更するプロファイル (1つまたは複数) を選択します。

ステップ4 次のタスクから選択します。

- [プロファイルの複製 (Duplicate Profile)] : プロファイルを複製します。
(注) 複数のプロファイルを一斉に複製することはできません。
- [プロファイルの削除 (Delete Profiles)] : プロファイル (1つまたは複数) を削除します。
- [プロファイルの編集 (Edit Profiles)] : プロファイル (1つまたは複数) を編集します。
- [プロファイルモード/状態の変更 (Change Profile Mode/Status)] : プロファイルモードを [有効 (Enable)]、[保留中 (Pending)]、または [無効 (Disable)] に変更します。

(注) プロファイルモードを [完了 (Completed)]に変更することと、状態が [進行中 (in-progress)]であるプロファイルのプロファイル モードを変更することはできません。

- [展開 (Deploy)] : プロファイルを展開します。

AP オンボーディング プロファイル グループの削除

既存の AP オンボーディング プロファイル グループを削除するには、次の手順に従います。



(注) プロファイルの状態が [進行中 (in-progress)]である場合、そのプロファイルは削除できません。

ステップ 1 [設定 (Configuration)]>[ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)]>[APオンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)]の順にクリックします。

ステップ 2 削除するプロファイル グループを選択します。

ステップ 3 [プロファイルグループの削除 (Delete Profile Groups)]をクリックします。
